



インターナショナル・ユース・デーを記念して UNESCO、ユース活動家と行った包括的性教育に関するパネルディスカッション

タイ・フィールド 便り

No1 | 2022年5月

2019年3月から2022年3月まで、バンコクにある UNFPA のアジア太平洋地域事務所で勤務した 秋山真輝（まき）です。Adolescent and Youth Programme Analyst として活動した3年間を振り返ります。

地域事務所での私の役割

私の配属先はアジア太平洋地域 23 か国の国事務所を管轄しており、私が所属していたテクニカル・チームは国事務所への技術支援や国事務所間の経験交流の場の設置といった役割を担っています。テクニカル・チームには性と生殖に関する健康、家族計画、ジェンダー、保健経済、高齢化、人権など、様々な分野のアドバイザーと呼ばれる専門家が所属していて、私は青少年・若者を専門とするアドバイザーの上司の指導のもと勤務していました。私は主に Comprehensive Sexuality Education (CSE/包括的性教育) の推進と若者のエンパワーメントと社会参加推進に関する活動を担当していました。前述のとおり、地域事務所の主な役割の一つは国事務所への技術支援ですが、知識経験ともに豊富な国事務所の同僚を、経験の浅い私がどうサポートできるのか最初は悩みました。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、対面で会ったことのない国事務所の同僚が多く、業務外でのコミュニケーションが無い中で信頼関係を一から築くのは容易ではありませんでした。

そこで、各国の同僚のニーズをできるだけ常に把握し、有益なリソースを随時共有したり、個々の国に合わせた資料を作成するなど、私が役に立てることから積極的に行いました。それにより信頼を得ることができ、2、3年目には技術支援の依頼を多く受けるようになり、私の意見や提案も尊重してもらえるようになりました。また、国事務所の多くは類似した課題を抱えていることが多いため、ウェビナーなどで、スタッフ間で経験や知識を共有する場も定期的に設けました。トピックは「イスラム教国での性教育の推進方法」、「障がいをもつ青少年への性教育」、「デジタル性教育ビデオの活用方法」など、国事務所からの要望に応じて様々です。青少年・若者の性や性教育に対して非常に多様な価値観が混在するアジア太平洋地域で、それぞれの国の実情に合ったアプローチを国事務所の同僚らと試行錯誤しながら模索した経験からは私自身も多くのことを得ました。



性教育に関する若者対象のアンケート調査の実施に協力してくれたユース活動家たちと



マレーシアで開催された第7回アジア・太平洋都市フォーラムのユースフォーラムにて、未来の都市計画者の若者たちと、包括的性教育がインクルーシブな社会づくりにどう貢献できるか話し合った

性教育の実施状況を把握するための調査業務

地域事務所の役割にはエビデンス強化も含まれます。具体的には研究機関等と連携してフィールド調査、文献調査などを行い、調査結果を政策提言やプログラムの効果的な実施に生かせるようにします。私もいくつかの調査業務に関わりましたが、特に印象に残っているのは、「[Learn. Protect. Respect. Empower. The Status of Comprehensive Sexuality Education in Asia-Pacific.](#)」という題の、アジア太平洋地域 30 か国の性教育の実施状況をまとめたレポートです。調査手法の考案から、データ収集、分析、広報物の作成まで1年以上もかかった、長丁場のプロジェクトでした。

若者の声を性教育の実施に生かすために

私が特に力を入れたのは、「若者の声」の収集です。企画の段階では国の教育省やNGO等への聞き取り調査と文献調査のみ予定していましたが、性教育を受ける側である若者の声こそ最も重要であると思い、若者対象のオンラインのアンケート調査、及びフォーカス・グループ・ディスカッションも盛り込むことにしました。その結果、性教育がどれだけ効果的に実施されているかという点で、政府関係者と若者の認識に大きなギャップが見えてきました。例えば5割近くのアンケート回答者が、思春期を迎える前に月経や夢精に関して十分な知識を得ておらず、実際に思春期の体の変化を経験する前に性の知識を得ておきたかったという声が挙がりました。

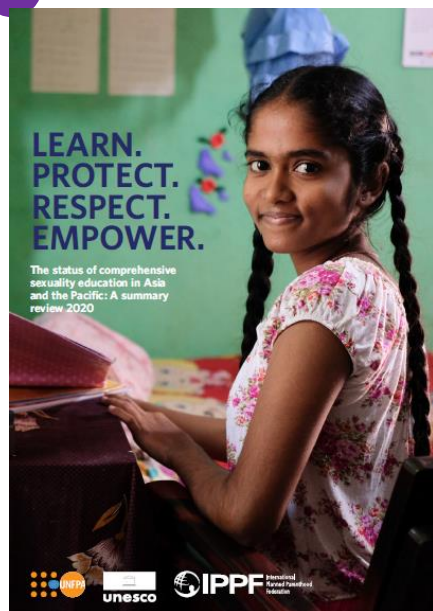
また、UNFPA が推奨している包括的性教育とは、ジェンダーや社会的規範や価値観、多様性、健康、権利、メディアリテラシー、コミュニケーション、人間関係など、生きる力を総合的に育むことを目指していますが、アンケート回答者が学校で受けた性教育は生殖器の仕組みや性感染症など、偏った内容であったことも分かりました。中には、学校には頼らず、性に関する知識はインターネットやソーシャルメディア、ポルノグラフィから学んだという声も聞かれました。

近年は [AMAZE](#) という性教育のアニメなど、正しい知識を得られるデジタル性教育教材も増えてきましたが、インターネット上には誤った性の情報も多いのが現状です。さらにポルノグラフィなどでは、女性が性の対象物として描かれていたり、暴力的な関係が肯定されていたりするため、若者に歪んだ価値観を植え付けてしまうリスクがあります。

デジタル時代の 性教育

そのため、学校や家庭での性教育を通し、早期に正しい知識や価値観を身に付けることが非常に大事です。インターネットやソーシャルメディアは多くの若者の生活の一部となっているので、間違った情報や歪んだ価値観に触れるのを防ぐことは不可能です。必要なのは、包括的性教育を通し、正しい情報を見極める方法や健全なジェンダー規範を育むこと。この調査結果は学校が担う役割の大きさを再認識させてくれました。

UNFPA は、全ての子どもや若者が年齢にあった包括的性教育を学校で受けられることを目指し、政府や NGO と共に、性教育のカリキュラム強化や教員の能力研修に取り組んでいます。性教育の実施に関する政策や教員研修の仕組みが整う国は年々増えてきています。一方、この調査でも明らかになった通り、学習指導内容や教授法など、改善すべき点はまだまだあります。また、性的少数者の若者や障がいをもつ学習者など、多様な学習者のニーズにも応えていく必要があります。前述の若者を対象としたアンケート調査に参加した性的少数者の回答者からは、「恋愛は異性間のものという前提の性教育だったので、自分のこととして捉えるのが難しかった」、「多様な性自認を肯定してほしい」という声が挙げられました。全ての子どもや若者を取り残さない学校性教育の実現への道りは遠いですが、学校性教育のインクルーシブ化に向けて、政府の取り組みを支援していきます。



全ての子どもや若者 を取り残さない 包括的性教育

また、草の根レベルの NGO、若者のネットワーク、デジタル性教育コンテンツ制作者などとの連携を強め、学校以外での性教育の機会も拡大していくなど、様々な方面からアプローチすることにより、学校性教育を補います。この調査で集めた様々な属性の若者の声が、これらの取り組みに活かされることを期待しています。



This factbook is based on findings from a joint UNFPA, UNESCO and IPPF regional review on the status of comprehensive sexuality education in the Asia and Pacific region conducted in 2020, which includes Ministry of Education (MoE) questionnaires, expert questionnaires, and an online youth survey.

To access the background research report: [link](#)

Young people identify the Internet, social media and their peers as more important sources of information on sexuality than school.

OF 1402 ONLINE YOUTH SURVEY RESPONDENTS (NON-REPRESENTATIVE SAMPLE)...

IS SEXUALITY EDUCATION IN-SCHOOL MEETING THE NEEDS OF YOUNG PEOPLE IN ASIA AND THE PACIFIC?



FELT THAT THEIR SCHOOL TAUGHT THEM ABOUT SEXUALITY 'VERY WELL' OR 'SOMEWHAT WELL'

一年以上かけて完成した、アジア太平洋地域の性教育の実施に関する調査結果をまとめた広報物（ポリシー・ブリーフ、ビデオ）